とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	中野区中野 1-59-5
園名	アルテ子どもと木幼保園

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

アートラボ～子どもの表現となるアート活動～

＜テーマの設定理由＞

花や葉っぱ、枝といった植物に多く振れることを意識し、乳児が自然にふれる環境を用意したい。水や砂、絵の具にとどまらず、乳児が感触を味わいながら探求心を深めることを意識した実践を展開していく。七夕など行事制作を行う中で様々な素材に触れることも試みる。作品化することを目的とせず、感覚を刺激しながらモノとどのように関るかに視点を置き、モノから刺激を受けて独自の表現につなげていく。その子らしさを認めつつ、その成長を他の保育者や保護者と共有し、子ども理解を深める。

２．活動スケジュール

4 月～環境作り　ミーティング　味のプロジェクト　花と豆の探求
5 月～畑の研究　植物の描画　食事のプロジェクト　青虫とアゲハチョウの研究、ままごと
6 月～小部屋作り、ミニアトリエミーティング、映像と遊び
7 月～氷と水などの感触遊び、七夕行事制作、光あそび

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
子どもの“なんだろう？”という気付きが膨らむよう、パソコンにウェブカメラをつなげてテーブルに置いた。また、さまざまな種類の虫眼鏡めがねも設置。短焦点カメラやプロジェクターも使用した。画材は四角い紙だけではなくカーペットのように長いロール紙や小さな切れ端の紙など、さまざまな大きさや素材の紙を用意し、子どもが自由に選んで描ける環境を用意した。クレヨン、カラーペン、鉛筆、水彩絵の具など日ごろから親しみのある描画材を設置。

４．探究活動の実践
＜活動の内容＞

・野菜の研究とままごと、食事の関係
・花の種と実の観察　描画
・青虫と蝶の育成と観察　表現活動
・七夕の行事制作での感触素材遊び
・氷や水、砂、粉、絵の具、野菜など様々な素材に触れて遊ぶ
・映像から感じて表現活動へ
乳幼児が自然物やさまざまな素材に触れる中で感じた感覚から遊びの探求が始まる。遊びの探求は大人の関りによって表現やなりきり遊びへ展開される。その子が感じて表現した活動を保育者同士で共有し、新たな環境設定が作られる。そのためには次なる展開を予測したカンファレンスが必要である。その取り組みは園の保育者の共有と振り返りにとどまらず、保護者や外部教育者にも共有し新たな学びの機会となる。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

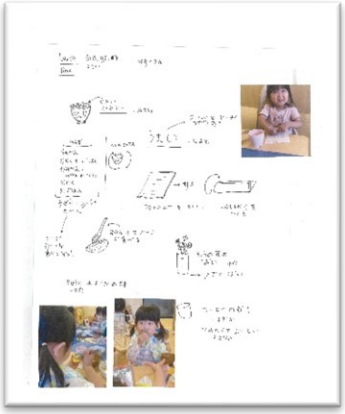
・給食室からもらった本物の野菜（端材）を園庭遊びの環境に取り入れた。始めは触ったり匂いを嗅いだりしながら素材に触れていた。保育者が玩具のお皿や鍋を並べたことからおままごとが始まる。料理する様子を再現しながら、子どもそれぞれが好きな食べ物をイメージしていた。職員や友達に食べてもらうと、次から次へと新たな料理を作り遊びが展開した。

実際の食事風景では、ランチの際はテーブルにお花を飾っている。その様子を再現できるようにままごとテーブルに花瓶を置いてみた。子ども達の遊び方や発言を保育者が観察し、興味に合わせた環境を設定することで、遊びの広がりが見られた。

・園で育てている絹さややトマト、ナス、ビオラの花を観察した。子ども達の興味が深まるよう拡大鏡やウェブカメラとパソコンを設定。表面だけではなくビオラの実を崩すことで、種を発見し、絹さやの実と比べながら観察画を描いた。

野菜の観察から遊びの材料　スクリーンで大きく映し表現遊びへ展開

自分のお料理をクラスで紹介　　食事を再現するままごと遊び　　テーブルセッティングを真似る



実際の食事の様子を記録し、子どもの様子を振り返る。

次の遊びや興味の展開を予測し環境を準備する。

ビオラの種と絹さやの実の研究

アオムシとアゲハチョウの飼育と描画

七夕制作　保護者と一緒にアルミの星を装飾

氷に触れて遊ぶ
（氷の中に花を入れた）

ライトテーブルに野菜の皮や葉っぱ、クリア積み木、玩具のジュースを置いた環境設定

木のアトリエは子どもの興味にあわせて随時変化させた

波の映像と波をイメージできる生地を設定して遊ぶ

外部教育関係者に向けての
研究発表（イタリア文化会館）

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

子ども達の遊びに注目することで、何が知りたいのか、何に興味を持っていてどうしたいのかを考える気付きとなった。個々の遊び方を職員間で共有しカンファレンスを行い、遊びや探究探索を広げる環境について考えることができた。環境には保育者の関りも大きく影響することから、大人の関わり方についても学ぶこととなった。

遊びの経過を記録し、写真や発言をまとめ、保護者に共有した。また Instagram やホームページのブログ、Facebook で発信。8 月にはイタリア文化会館にて外部教育関係者への発表も行った。